プログラム

4月15日(土)

A会場

座長：皆川昇

- 9:00 A101 青森県に侵入が確認されたヒトスジシマカ
○小林睦生¹、前川芳秀¹、駒形 修¹、石田恵一²、藤井重輝²、奥山弘幸²、塩野儀人²、沢辺京子¹
(¹国立感染症研究所昆虫医科学部、²仙台検疫所)
- 9:10 A102 東京都における平成28年度感染症媒介蚊サーベイランス結果
○高橋久美子、井口智義、石上武、田部井由紀子、酒井侑、小林巧、分部美香、矢野一成、灘岡陽子、鈴木俊也、保坂三継(東京都健康安全研究センター)
- 9:20 A103 東京都における平成28年度デング熱等媒介蚊サーベイランス結果
○井口智義、高橋久美子、石上武、田部井由紀子、渡邊喜美代、播田實千恵子、五十嵐剛、小杉有希、大久保智子、酒井侑、小林巧、分部美香、矢野一成、小西浩之、灘岡陽子、鈴木俊也、保坂三継(東京都健康安全研究センター)

座長：小林睦生

- 9:30 A104 岡山市の公共施設と住宅地におけるヒトスジシマカの発生状況調査(2015年, 2016年)
○津田良夫¹、前川芳秀¹、葛西真治¹、皆川恵子²、数間亨²、堀口智博²、山内健生³、沢辺京子¹
(¹国立感染研・昆虫医科学、²日環センター、³兵庫県立大)
- 9:40 A105 山裾の墓地から発生するヒトスジシマカの移動に関する実験
○前川芳秀¹、津田良夫¹、山内健生²、五十嵐真人³、数間亨⁴、佐藤裕蔵⁵、金山隆一⁵、沢辺京子¹
(¹国立感染研・昆虫医科学、²兵庫県立大、³鵬図商事、⁴日環センター、⁵住化エンバイロメンタルサイエンス)
- 9:50 A106 大学構内における蚊の防除：成虫密度が著しく高い地点の周辺の発生源について
○砂原俊彦(長崎大学熱帯医学研究所病害動物学分野)
- 10:00 (休憩)

座長：大橋和典

- 10:10 A107 アキアカネを利用したデング熱媒介蚊の駆除手法の開発
○神宮字 寛、熊谷 祐(宮城大学)
- 10:20 A108 一般化線形混合モデルを用いたヒトスジシマカ生息リスクマップ(岩手県)
○佐藤卓¹、二瓶直子²、小林睦生²(¹岩手県環境保健研究センター地球科学部、²国立感染症研究所昆虫医科学部)
- 10:30 A109 熊本地震被災地における蚊の発生状況調査
○米島万有子¹、渡辺 護²、渡辺はるな³、村松佑典⁴、東田和典⁴、小林睦生²、沢辺京子²(¹熊本大・文・空間地理学、²感染研・昆虫医科学、³富山市、⁴熊本県PCO協会)
- 10:40 A110 熊本地震と東日本大震災の被災地における蚊の発生状況の相違
○渡辺 護¹、渡辺はるな²、米島万有子³、沢辺京子¹(¹感染研・昆虫医科学、²富山市、³熊本大・文・空間地理学)

座長：津田良夫

- 10:50 A111 大阪府高槻市の神社におけるBG-センチネル2を利用した蚊類の連続モニタリングについて
○菅野格朗・足立行男・前田浩志・石川善大・三浦克之・片山淳一郎(環境機器株式会社)
- 11:00 A112 ドライアイス併用CDC型ミニチュアライトトラップ法、ヒト囷法、BG-センチネル2型トラップ法の3種類の調査法を用いた蚊類調査
○福浦祐介、中嶋智子(京都府保健環境研究所環境衛生課)

4月15日(土)

11:10 (休憩)

11:20 **A113 長崎市の冬季屋外環境におけるネッタイシマカ卵の越冬について**

○比嘉由紀子¹、鶴川千秋¹、今西望¹、津田良夫²、沢辺京子² (¹長崎大学熱帯医学研究所、²国立感染症研究所昆虫医科学部)

座長：駒形修

11:30 **A114 ヤブカにおける吸血促進因子 ATP の作用機序の解明**

○佐久間知佐子、嘉糠洋陸 (東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座、衛生動物学研究センター)

11:40 **A115 ネッタイシマカでの共生細菌ボルバキアの感染様式**

○大手 学^{1,2}、嘉糠洋陸^{1,2} (¹東京慈恵会医科大学・熱帯医学講座、²東京慈恵会医科大学・衛生動物学研究センター)

11:50 **A116 デングウイルス媒介蚊における宿主認識メカニズムの解析**

○市村秀俊^{1,2}、佐久間知佐子^{1,2}、Chun-Hong Chen³、嘉糠洋陸^{1,2} (¹東京慈恵会医科大学熱帯医学講座、²東京慈恵会医科大学衛生動物学研究センター、³台湾國家衛生研究院)

12:00 **A117 精巢における細胞死誘導系を導入したハマダラカの解析**

○山本大介¹、炭谷めぐみ²、笠嶋克巳³、瀬筒秀樹²、松岡裕之¹、加藤大智¹ (¹自治医大・医動物学、²農研機構・カイコ機能改変技術開発ユニット、³自治医大・機能生化学)

13:30 総会

座長：津田良夫

14:10 学会賞・佐々賞授賞式・受賞講演

佐々賞： 日本産蚊の国内分布に関する全国調査・日本産蚊の分子生物学的種同定のための DNA バーコードの整備

○前川芳秀 (国立感染症研究所昆虫医科学部)

衛生動物学会賞： 日本の vector-borne disease 対応に関する一連の研究

○沢辺京子 (国立感染症研究所昆虫医科学部)

座長：皆川昇

15:20 大会シンポジウム

S1 マラリア原虫と媒介蚊の相互作用における腸管内細菌のゆらぎ

○嘉糠洋陸 (東京慈恵会医科大学・熱帯医学講座、衛生動物学研究センター)

S2 日本におけるデング熱・ジカウイルス媒介蚊の監視と効果的な対策への備え

○津田良夫 (国立感染症研・昆虫医科学)

S3 ダニ媒介性ウイルスについて

○早坂大輔 (長崎大学熱帯医学研究所ウイルス学分野)

S4 Control of schistosomiasis in sub-Saharan Africa: what role is left for medical malacology?

○J. Russell Stothard (Liverpool School of Tropical Medicine)

4月15日(土)

B会場

座長：大塚靖

9:00 B101 ビクトリア湖浮遊ホテイアオイと住血吸虫中間宿主貝の移動

○二見恭子、菊池三穂子、原 史絵、胡 錦萍、皆川 昇、濱野真二郎(長崎大学熱帯医学研究所)

9:10 B102 成田および羽田空港内で発見したネツタイシマカの遺伝構造の解析

○胡 錦萍¹ 糸川健太郎² 二見恭子¹ 比嘉由紀子¹ 沢辺京子² 皆川 昇¹ (¹長崎大学熱帯医学研究所、²国立感染研・昆虫医科学)

9:20 B103 温暖化の昆虫個体群抑制効果—不快害虫アメリカシロヒトリの例—

○都野展子(金沢大・自然科学)

座長：三條場千寿

9:30 B104 福島第一原発事故周辺汚染地域における放射性セシウムのハエ類への蓄積、経年変化、摂食および変態に伴う移行—2015～2016年の調査—

○岩佐光啓・佐藤宏輔(帯広畜産大・昆虫)

9:40 B105 室内プールから発生するユスリカ類の実態とその防除.

○平林 公男(信州大学学術研究院理工学域繊維学系)

9:50 B106 奄美大島におけるブユの季節消長と日中活動の人囮法による調査

○大塚 靖¹、福田昌子²、高岡宏行³ (¹鹿児島大、²大分大、³マラヤ大)

10:00 (休憩)

10:10 B107 大分県におけるイノシシ囮法を用いたブユ成虫の採集

○福田昌子¹、大塚 靖²、高岡宏行³ (¹大分大、²鹿児島大、³マラヤ大)

座長：小松謙之

10:20 B108 森林内クロゴキブリの樹洞潜伏場所からの外出パターン

○辻 英明(環境生物研究会)

10:30 B109 飢餓状態におけるクロゴキブリの生存期間

○富岡康浩、田中和之、木村悟朗、谷川 力(イカリ消毒(株)技術研究所)

座長：岩佐光啓

10:40 B110 ペルー共和国で流行するハイブリッド型リーシュマニア原虫のベクター調査

○加藤大智¹、アブラハム・カセレス²、橋口義久³ (¹自治医大・医動物学、²ペルー・国立衛生研究所・昆虫医科学、³エクアドル・カトリカ大・熱帯医学)

10:50 B111 東京都におけるサシチョウバエ(Diptera: Psychodidae, Phlebotominae) 採集の初記録

○三條場千寿、大間知聡子、佐藤開、松本芳嗣(東京大・農・免疫)

11:00 B112 北海道に生息するアブ科雌成虫の外部生殖器(双翅目:アブ科)

○楊 超・佐々木 均(酪農大・昆虫)

11:10 (休憩)

11:20 B113 シカがアブを連れて来た

○渡辺 護(感染研・昆虫医科学)

4月15日(土)

座長：都野展子

- 11:30 B114 西表島で発見されたチャバネゴキブリ科ヒメゴキブリ亜科の未記録種。
○小松謙之¹、黄 鴻堅²、阪東直樹³、内田明彦⁴(¹シー・アイ・シー、²麻布大・獣医、³スーパーバディーズ、⁴ヤマザキ学園大・動物看護)
- 11:40 B115 日本脳炎媒介蚊 *Culex tritaeniorhynchus* の和名について
○上村 清(丸三製薬バイオテック)
- 11:50 B116 日本産ヤマトハマダラカは形態学および分子生物学的に3グループに分かれる
○今西望¹、比嘉由紀子²、Hwa Jen Teng³、砂原俊彦²、皆川昇²(¹長大・医歯薬、²長大・熱研、³台湾・CDC)
- 12:00 B117 牛舎に飛来したコガタアカイエカの行動把握
○高木正洋¹、杉山章²、丸山勝巳³(¹長崎県大村市、²名古屋女子大学、³三重県鈴鹿市)

C会場

座長：山内健生

- 9:00 C101 北陸から近畿に続発してきたダニ媒介感染症、その疫学要因は共通か？
○高田伸弘^{1,3}、夏秋 優²(¹福井大・医、²兵庫医大、³医学野外研究支援会)
- 9:10 C102 ヒト刺咬マダニ種に関する考察—石川県能登地方の症例を参考にして
○及川陽三郎、村上 学(金沢医大・医動物)
- 9:20 C103 海外で咬着を受けたマダニ刺症の6例
○夏秋 優¹、矢野泰弘²、高田伸弘²、伊東拓也³(¹兵庫医科大学皮膚科学、²福井大学医学部、³北海道立衛生研究所)

座長：矢野康弘

- 9:30 C104 マダニ除去法の検討～Tick twist 法の有用性について～
○馬原文彦^{1,2}、藤田博己²(¹馬原医院、²馬原アカリ医学研究所)
- 9:40 C105 日本産アオヘビ属のヘビ類に寄生するツツガムシとマダニ類
○高橋 守・三角仁子(埼玉医大)
- 9:50 C106 集束イオンビーム走査型電子顕微鏡複合装置によるマダニの断面観察
○松島英輝、近藤俊三、鈴木俊明(日本電子株式会社)
- 10:00 (休憩)

座長：高橋守

- 10:10 C107 母島のドブネズミは環境要因で軽量化：上顎臼歯列長と体型値が証明
○矢部辰男¹、堀越和夫²、橋本琢磨³(¹熱帯野鼠対策委員会；²小笠原自然文化研究所；³自然環境研究センター)
- 10:20 C108 東京都および日本ペストコントロール協会のハクビシンの相談件数
○谷川 力^{1,2}、玉田昭男¹、平尾素一²(¹東京都ペストコントロール協会、²日本ペストコントロール協会)
- 10:30 C109 動物園飼育下オオサンショウウオ(*Andrias japonicus*)から得られたアタマビル *Hemicleipsis marginata* (Hirudinida: Glossiphoniidae)の記録
田中祥菜¹、田口勇輝²、野田亜矢子²、野々上範之²、○浅川満彦¹(¹酪農大・獣、²広島市安佐動物公園)

4月15日(土)

座長：前川芳秀

- 10:40 **C110** ライトトラップのサイズおよび設置レイアウトがタバコシバンムシの捕獲効率に及ぼす影響
○和栗 伸伍¹, 荻野 翔真², 北嶋 康樹², 後藤 哲雄² (1)株フジ環境サービス, 2)茨城大学農学部)
- 10:50 **C111** 倒立顕微鏡を用いた実験動物に対する蚊の穿刺・吸血行動の観察
山本晴輝¹, 高橋智一¹, 鈴木昌人¹, ○青柳誠司¹, 引土知幸², 川尻由美², 中山幸治² (1)関西大学, 2)大日本除虫菊(株))
- 11:00 **C112** 吸血忌避試験装置の開発 (1) -ヒトスジシマカの吸血促進因子としての二酸化炭素
○倉本幹也¹・三橋卓也¹・高橋佳子¹・渡邊明子¹・鶴川千秋²・川田 均² (1)一般財団法人カケンテストセンター, 2)長崎大学熱帯医学研究所)
- 11:10 (休憩)

座長：平林公男

- 11:20 **C113** 自滅型オビトラップ開発のための物理的・化学的要因に対するネッタイシマカの誘引性の検討
○角田隆^{1,2}, Nguyen Thi Dung², Vi Quynh Trang², Tran Vu Phong³, 皆川昇¹ (1)長崎大熱研, 2)長崎大ベトナム拠点, 3)ベトナム国立衛生疫学研究所)
- 11:30 **C114** 国産セアカゴケグモ抗毒素の試験製造
○沢辺京子¹, 益子玲於奈², 前川芳秀¹, 小川浩平¹, 糸川健太郎^{1,3}, 佐藤智美^{1,4}, 伊澤晴彦¹, 津田良夫¹, 小林陸生¹, 松村隆之⁵, 阿戸 学⁵, 山本明彦⁶, 一二三 亨⁷ (1)国立感染研・昆虫医科学, 2)明治大・農・応用昆虫, 3)日本医療研究開発機構, 4)明治大・院・応用昆虫, 5)国立感染研・免疫, 6)国立感染研・バイオセーフティ管理, 7)香川大・附属病院救命救急センター)

座長：橋本知幸

- 11:40 **C115** 福島県除染作業現場における虫刺咬被害対策 (第一報)
○向永真也, 杉岡弘基, 菊田さやか, 三木悠紀子, 丹羽涼子, 大野泰史, 引土知幸, 川尻由美, 中山幸治 (大日本除虫菊(株))
- 11:50 **C116** 福島県除染作業現場における虫刺咬被害対策 (第二報)
○杉岡弘基, 向永真也, 丹羽涼子, 大野泰史, 引土知幸, 川尻由美, 中山幸治 (大日本除虫菊(株))
- 12:00 **C117** イカリジン配合人体用虫よけ剤の忌避効力について
○菊田さやか, 小林洋子, 大野泰史, 引土知幸, 川尻由美, 中山幸治 (大日本除虫菊(株))

4月16日(日)

A会場

座長：富田隆

- 9:00 A201 オリセット®ネットで作った天井式蚊帳の マラリア原虫感染に対する効果のクラスター無作為比較評価試験
○皆川 昇¹、James O Kongere²、George O. Sonye³、Beatrice Awuor³、胡 錦萍¹、Peter A. Lutiali²、Mercy Mwanja²、川田均¹、二見恭子¹、Sammy M. Njenga⁴ (1長崎大学熱帯医学研究所、2長崎大学ケニア拠点、3ASK Project, Mbita, Kenya、4Eastern and Southern Africa Centre of International Parasite Control, Kenya Medical Research Institute)
- 9:10 A202 メトフルトリン製剤を用いたマラウイ共和国におけるマラリアコントロールに関する大規模試験(1) マラリア媒介蚊個体群に対する密度抑制効果と小児の熱帯熱マラリア陽性率に対する影響
○川田 均¹・中澤秀介¹・島袋 梢²・大橋和典³・Eggrey Aisha Kambewa⁴・Dylo Foster Pemba⁴ (1長崎大学熱帯医学研究所、2長野県看護大学、3住友化学株式会社健康農業関連事業研究所、4Department of Biology, Chancellor College, University of Malawi)
- 9:20 A203 The effectiveness of newly formulated pyriproxyfen (Sumilarv® 2 MR) against *Aedes* mosquitoes found in school compounds in Yangon, Myanmar
○Sai Zaw Min Oo^{1,2}、Noboru Minakawa¹、Yan Naung Maung Maung²、Sein Thauung²、Khin Myo Aye²、Zar Zar Aung²、Hlaing Myat Thu²、Khin Yupar Soe³ and Kyaw Zin Thant² (1Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan, 2Department of Medical Research, Ministry of Health, Myanmar, 3Department of Medical Services, Ministry of Health, Myanmar)

座長：川田均

- 9:30 A204 2015年に日本で採集したヒトスジシマカの殺虫剤感受性の状況
○富田隆史¹、葛西真治¹、駒形修¹、糸川健太郎¹、前川芳秀¹、津田良夫¹、矢口昇²、緒方一喜³ (1感染研、2東京都豊島区池袋保健所、3日本環境衛生センター)
- 9:40 A205 ベトナムで採集されたヤブカ成虫のピレスロイド剤感受性とナトリウムチャンネルの変異
○葛西真治¹、角田隆²、前川芳秀¹、糸川健太郎^{1,3}、室田勝功^{1,3}、駒形修¹、Tran Chi Cuong⁴、Tran Vu Phong⁴、Nguyen Thi Yen⁴、Vu Sinh Nam⁴、皆川昇²、沢辺京子¹、富田隆史¹ (1国立感染研・昆虫医科学、2AMED、3長崎大・熱研、4ベトナム国立衛生疫学研究所)
- 9:50 A206 防疫用殺虫剤の新用法用量によるヒトスジシマカ成虫への野外実地効力試験(野外における防疫用殺虫剤の新用法用量によるヒトスジシマカに対する効力)
○皆川恵子¹、武藤敦彦¹、橋本知幸¹、数間亨¹、堀口智博¹、津田良夫²、前川芳秀²、沢辺京子² (1(一財)日本環境衛生センター、2国立感染研・昆虫医科学)

10:00 (休憩)

座長：葛西真治

- 10:10 A207 水中のピリプロキシフェンの食品容器及び腐食モデル物質への吸着
○駒形 修、糸川健太郎、葛西真治、富田隆史(国立感染症研究所昆虫医科学部)
- 10:20 A208 ピリプロキシフェン製剤による雨水枡の蚊幼虫防除とその効果発現メカニズム
○大橋和典(住友化学株式会社)
- 10:30 A209 チカイエカにおけるピリプロキシフェン抵抗性の遺伝学的研究
○糸川 健太郎^{1,2}・駒形 修¹・葛西 真治¹・富田 隆史¹ (1感染研・昆虫、2国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED))

4月16日(日)

座長：杉浦正昭

10:40 A210 蒸散したノックダウン型ピレスロイドのイエバエ体内への侵入経路

○住田 雄亮^{1, 2}・川田 均¹・皆川 昇¹ (¹長崎大学・熱研, ²住友化学)

10:50 A211 薬剤含浸ネットによる吸血性ヌカカ類の侵入阻止効果

金杉 隆雄¹、鳴海 駿²、○佐々木 均² (¹ぐんま昆虫の森、²酪農学園大学・昆虫)

11:00 A212 クロヌカカ類成虫に対するエトフェンプロックスの効果

○木村悟朗¹、仲本 明²、上江洲友光³、金杉隆雄⁴、 (¹イカリ消毒(株)、²イカリ消毒沖繩(株)、³久米島町役場、⁴群馬県立ぐんま昆虫の森) .

11:10 (休憩)

座長：木村悟朗

11:20 A213 殺虫剤抵抗性系統昆虫の累代飼育における抵抗性低下の要因

○杉浦 正昭 (フマキラー株式会社)

11:30 A214 ハッカ油を有効成分としたゴキブリ忌避剤の製剤開発

○菅野夏基、張鵬、日塔彬 (アース製薬株式会社)

11:40 A215 界面活性剤のコロモジラミに対する効果

○池田直子、稲見浩之、吉岡由明 (株式会社大阪製薬)

11:50 A216 4種殺虫剤の野外生息マダニに対する駆除効果

○橋本知幸¹、皆川恵子¹、数間亨¹、武藤敦彦¹、葛西真治²、前川芳秀²、渡辺護²、富田隆史²、駒形修²、沢辺京子²、山内健生³、白石都⁴、大石英明⁵ (¹日本環境衛生センター、²国立感染症研究所、³兵庫県立大学、⁴兵庫県、⁵豊岡市)

座長：川田均

13:30 市民公開講座 身近な衛生動物との上手なつきあい方

O1 ダニの話

○角田隆(長崎大学熱帯医学研究所、長崎大学ベトナム拠点)

O2 ゴキブリのはなし

○杉浦正昭(フマキラー株式会社)

O3 身近な蚊を減らすには

○砂原俊彦(長崎大学熱帯医学研究所)

O4 上手な殺虫剤の使い方

○谷川力(イカリ消毒株式会社技術研究所)

B会場

座長：川端寛樹

9:00 B201 福岡県内の愛玩動物に付着したマダニにおける SFTS ウイルス及び紅斑熱群リケッチアの保有状況調査

○芦塚 由紀、小林 孝行、吉富 秀亮、中村 麻子、梶原 淳睦(福岡県保健環境研究所)

9:10 B202 国内におけるダニ媒介性ウイルスの感染環の調査

○下田 宙、水野純子、Dung van Nguyen、米満研三、南 昌平、長田奈緒、鎌田龍星、高野 愛、前田 健(山口大学)

9:20 B203 発熱と血小板減少症を呈した犬末梢血からの *Anaplasma phagocytophilum* 遺伝子の検出○森川真子¹、安楽みずき¹、福井祐一²、猪熊 壽¹(¹帯広畜産大学臨床獣医学部門,²こまち動物病院)9:30 B204 犬の *Anaplasma phagocytophilum* 感染症が発生したつくば市におけるマダニおよび飼育犬の *Anaplasma* 保有状況調査○安楽みずき¹、森川真子¹、福井祐一²、猪熊 壽¹(¹帯広畜産大学臨床獣医学部門,²こまち動物病院)

座長：高田伸弘

9:40 B205 新興回帰熱 (*Borrelia miyamotoi* disease: BMD)の新規抗体検査用抗原の探索○佐藤梢¹、熊谷由美¹、山野公明²、大西真¹、川端寛樹¹(¹国立感染症研究所,²北海道立衛生研究所)

9:50 B206 新興回帰熱：SFTSの鑑別診断としての重要性について

○川端寛樹¹、佐藤梢¹、熊谷由美¹、福士秀悦¹、下島昌幸¹、西條政孝¹、山野公明²、大西真¹(¹国立感染症研究所,²北海道立衛生研究所)

10:00 (休憩)

10:10 B207 マダニ体内における病原体の存在様式から感染時期を推察する

○矢野泰弘(福井大学医学部医動物学領域)

10:20 B208 路上生活者におけるコロモジラミ由来アシネトバクター属細菌について

○佐々木年則¹、久保田眞由美²、伊藤航人³、山岸拓也⁴、川崎麻紀³、十菱大介³、平尾磨樹³、伊澤晴彦¹、足立智英³、大石和徳⁴、柴山恵吾²、澤邊京子¹(¹国立感染症研究所昆虫医科学部,²細菌第2部,³東京都済生会中央病院,⁴国立感染症研究所感染症疫学センター)

座長：沢辺京子

10:30 B209 日本脳炎はなぜ日本で減ったのか？

○上村 清(丸三製薬バイオテック(株))

10:40 B210 石川県内豚舎周辺での蚊発生状況調査と日本脳炎ウイルス分離(2010-2016年度)

○村上学¹、及川陽三郎¹、上村清²(¹金沢医大 医動物、²丸三製薬バイオテック株式会社)

10:50 B211 本邦イノシシにおける日本脳炎ウイルス・ゲタウイルス感染の血清疫学調査

○鎌田龍星¹、下田 宙¹、杉山弘樹¹、Thanmaporn Phichitrasilp²、Nutch Nuansri²、Siriwan Khomkrajang²、Teeraporn Srinivat²、Warunee Buadok²、Noppadol Prasertsincharoen²、Sathaporn Jittapalapong²、Worawut Rerkamnuaychoke²、前田 健¹(¹山口大学,²カセサート大学)

4月16日(日)

座長：楢田龍星

11:00 B212 コガタアカイエカ *Culex tritaeniorhynchus* のアカバネウイルス媒介能の検討

○梁瀬 徹、加藤友子、堀脇浩孝、白藤浩明、田中省吾(農研機構動衛研)

11:10 (休憩)

11:20 B213 ベトナムのヤブカより分離されたウイルスに関する解析

○室田勝功^{1,2}、小林大介^{2,3}、藤田龍介^{1,2}、糸川健太郎^{1,2}、前川芳秀¹、葛西真治¹、角田隆⁴、皆川昇⁴、Tran Chi Cuong⁵、Tran Vu Phong⁵、Nguyen Thi Yen⁵、Vu Sinh Nam⁵、伊澤晴彦¹、沢辺京子¹ (¹国立感染研・昆虫医科学, ²AMED, ³東京医歯大・院・国際環境寄生虫病, ⁴長崎大・熱研, ⁵ベトナム国立衛生疫学研究所)

11:30 B214 2016年ガーナ共和国における疾病媒介節足動物の分布調査ならびに保有ウイルスの解析

○小林大介^{1,2,3}、木村晶平¹、伊澤晴彦²、糸川健太郎^{2,4}、室田勝功^{2,4}、藤田龍介^{2,4}、Nana Antwi⁵、Deborah Pratt⁵、Esinam Agbosu⁵、大橋光子¹、Kofi Bonney⁵、Samuel Dadzie⁵、沢辺京子²、太田伸生¹ [¹東京医科歯科大・院・国際環境寄生虫病, ²感染研・昆虫医科, ³日本学術振興会(JSPS)・特別研究員 DC1, ⁴日本医療研究開発機構(AMED), ⁵ガーナ大・野口研(NMIMR)]

座長：高木正洋

11:40 B215 ボウフラの捕食回避行動の教材化に向けた研究Ⅰ：行動と生活史形質に着目して

○大庭伸也・野稲 充(長崎大学教育学部)

11:50 B216 ボウフラの捕食回避行動の教材化に向けた研究Ⅱ：簡便な観察法の確立

○大庭伸也・野稲 充(長崎大学教育学部)

12:00 B217 蚊と蚊媒介性感染症に関する知識の普及活動『世界モスキートデー—蚊と蚊がもたらす病気について知ろう—』の実践報告

○今西望^{1,2}、森保妙子^{1,2}、嶋田聡^{1,2}、藤岡充史^{1,2}、吉原圭亮^{1,2}、外川裕人^{1,2}、石崎隆弘^{1,2}、馬場由妃子^{1,4}、砂原俊彦^{1,3}、一盛和世^{1,4} (¹世界モスキートデー運営委員会, ²長崎大・医歯薬, ³長崎大・熱研, ⁴長崎大・フィラリアNTD室)